

長崎港を観光船でめぐって



新・観光丸（やま）が、機会があれば軍艦島クルーズなどにも参加してみたいと思います。

長崎は造船の町として、様々な造船所があります。これらを紹介します。今回は視点を変え、海の上から造船所を見ることができました。そこで私たちは、八月二十四日にやまさ海運の新・観光丸に乗船し、取材をしました。今まで造船所を工場見学やインターンシップで訪れることは何度もあったのですが、海の上から見たことは一度もなかったのです。とても貴重な体験になりました。クルーズ中は、様々な角度から造船所や観光所の写真をとることができ、その後の学習や発表にもつなげることができました。また、ガイドさんが観光名所の歴史などについて、一つ一つ丁寧に説明してくださったので、その場所の知らなかったことを深く知ることができました。まず、



運行ルート（やまさ海運H.P.より）

主な造船所を紹介し、つぎにぜひ知ってもらいたい観光名所を紹介したいと思います。新・観光丸を下りた後は、造船船が盛んな長崎港についてより詳しく（やま）が、機会があれば軍艦島クルーズなどにも参加してみたいと思います。

長崎港は上空から見ると、鶴が羽を広げたような形に見えることから「鶴の港」とも呼ばれています。江戸時代は「鎖国」体制にあつて、西洋・中国向けに唯一公認した国際貿易港として栄え、明治以降は上海への航路の発地として貿易や旅客の行き来が盛んになりました。また、造船分野においては、幕末から明治にかけて世界に類を見ないほど飛躍的な進化・発展を遂げました。現在では、港町・長崎の玄関口として、海外から二百隻以上の大型客船の寄港地として栄えています。

長崎港

長崎工業高校 造船新聞

第4号
長崎工業高校
機械システム科

荒木 江頭
江村 森山

観光船から見える造船所



ジャイアントカンチレバークレーン

少し寂しい気がします。LNG船の建造がなくなり、

三菱重工業
長崎造船所

三菱重工業の主力工場・造船所の一つです。旧日本海軍が誇る世界最大の大型戦艦の第二番艦武蔵は、長崎市の三菱重工長崎造船所で建造されました。国家機密だった武蔵の建造実績は、長崎造船所の技術の評価を高め、戦後は海上自衛隊の艦艇受注へつながりました。長崎造船所では、小菅修船場跡、第三船渠、ジヤイアント・カンチレバークレーン、旧木型場、占勝閣の五資産が世界遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産となっています。

豊富な建造実績を有し、その優れた技術力で、国内はもとより世界でも高い信頼と評価を得ています。長崎事業所では二〇〇四年の創業以来、ケミカルタンカーを中心に多くの船舶を世界に送り出してきました。これまで得意としていた二十

福岡造船グループは、九州最大の政治経済都市である福岡市、港湾に恵まれている長崎市、リアス式海岸に囲まれた大分県臼杵市を中心に日々邁進しています。また、「人々の夢や希望を載せた船を造る」をモットーにしており、主力建造船であるケミカルタンカーをはじめ、油槽船、セメント船、LPG船、フェリー、バルクキャリアなど

福岡造船 長崎工場



三菱重工業香焼工場ドック



海上から見た長崎造船

の移転が計画されています。

以西底曳網漁船、旋網漁船をはじめ、官庁船、客船、特殊船などの国内船や、各地各種の輸出船を建造しています。顧客満足度を高めるため、ISO9001の認証を取得、さらにISO14001の認証も取得しています。また、全天候型造船工場や、浮きドックを保持しています。大型客船が複数、松ヶ枝埠頭に接岸できるようバースの延長が計画されているため、工場

長崎造船

ターゲット、徐々に大型化し三十三千DWTクラスまで実績を積上げ、二〇二一年には最大級の四十七千DWTタンカーの竣工を計画しています。

井筒造船所

戦後になって、国民の海産物食料を確保するための底引き漁船、まき網漁船を建造してきました。現在では漁船、作業船、小型客船などを手がけており、特に沖合漁業に従事する漁船を建造する日本でも数少ない造船所です。



浮きドック

渡辺造船所

漁船、貨物船などの様々な船の建造・修繕・改造をしています。従業員などのことも考え、中小造船所の中では国内で初めて「全天候型の可動式ドーム」を取り入れていきます。船舶の建造のみではなく、主力船舶関連メーカーにはない特殊ニーズに応ずる製品の開発・製造・販売なども行っており、最近では福岡造船㈱の子会社となりました。



全天候型ドーム式船台

インターンシップ感想

長崎造船 組立、溶接、切断、曲げ加工等の現場仕事や、事務、船舶設計等の船舶の建造にかかわる様々な業務を見させていただく事ができました。また、点検や修理のために、泊まっていた漁船や官庁船、それらの新船に乗せていただき、中の客室やエンジン周りの構造を説明を受けながら見せていただきました。特に印象に残っているのは現場仕事で、今までにないほど近くで業務を見させていただき、迫力に圧倒されました。中でも溶接と切断は現場で働いているプロの方々に指導を受けながら実際に体験させていただき、現場仕事の大変さ、うまくできたときのやりがいを感じることが

ができました。私は将来、造船業の現場で働きたいと考えていたため、本当に良い経験になりました。

江村

渡辺造船所

他の造船所では見ることができない深海魚メロを採るメロ船を見ることができました。メロ船の内部は工事中だったので、作業者の方の説明を受けながら見学することができました。船室の骨組みや配線を目の前で見ることができ、その凄さに圧倒されました。また、ドックの中に入ることができ、船底を見ることができ、造船の楽しさや危なさ、やりがいなど実際に働いている方々から多くのことを教えていただき、進路決定の大きな指針となりました。

荒木・江頭



インターンシップの様子

長崎港周辺の観光名所を運行ルート順に紹介します

長崎女神大橋

長崎女神大橋（ながさきめがみおほし）は長崎港の港口に架かる橋で、長崎市内の交通渋滞の緩和と、長崎港の両岸に分散している港湾施設の連携強化・物流の効率化を図る事を目的として建設されました。愛称は「ヴィーナスウイング」です。長崎港に大型の客船が入り込むことを考慮して、水面から非常に高い場所を人や車が通行する斜張橋の形式を取っており、客船クイーン・メリー二世などもこの下を通過出来ます。橋の下を通過するとき、その大きさに圧倒されます。



長崎女神大橋

神ノ島マリア像

教会の前の岬に立つ聖母マリア像は高さ4メートル60センチで、長崎港を出入りする船舶の安全を祈願して建てられたものです。



神ノ島マリア像

小菅修船場跡 ソロバンドック

小菅修船場は日本最古の蒸気機関を動力とする曳揚げ装置を整備した洋式スリップ・ドックです。船をボイラー型蒸気機関の力で曳き上げるために設置されたレール上の船を載せる台がそろばん状に見えたため、「ソロバンドック」と呼ばれるようになりました。この修船場は、外国船の修理を目的としてトーマス・ブレイク・グラバーが



ソロバンドック

編集後記

今回、この新聞の記事を書くにあたり、長崎の造船所や、長崎港周辺の観光名所を一から調べたり、クルーズに参加したりしました。その中で改めて長崎の造船が、日本に、世界に誇れるものではないかと思えました。この新聞を読んで、長崎に、そして造船に少しでも興味を持ってもらえたら嬉しいです。

薩摩藩士らと計画し、スコットランドから曳揚げ装置一式を取り寄せ、明治元年に完成しました。翌年明治新政府が買収、長崎製鉄所が管理し、明治二十三年に三菱の所有となり現在に至っています。その意味では小菅修船場は日本の近代造船所発祥の地ともいえます。また、曳揚げ小屋は現存する日本最古の本格的な煉瓦造の建物です。現在は国の史跡に指定されています。